

(仮称) 生きものつながる世田谷プラン 概要版

はじめに

世田谷は、23区の中でも比較的自然環境に恵まれています。一方、宅地開発や農地の転用などにより、自然環境や様々な生きものの減少が危惧されています。地球全体を見た場合も、人類に様々な恵みをもたらす、様々な生きものとそのつながりが刻一刻と失われつつあります。

生きものと共にある暮らしと、みどり豊かな環境を次代に受け継ぐためにも、今、私たちは何ができるか、何をすべきかを考え、行動しなければなりません。そこで、区は住宅都市のリーディングモデルとなる生物多様性地域戦略を「生きものつながる世田谷プラン」として策定し、皆で取り組みを実践していきます。

第1章 私たちの暮らしと生物多様性のつながり

生きものたちは、樹林や草地、湿地、池や川、公園、人家の庭など、それぞれの生息・生育に適した環境で生きています。そして、食べる・食べられる、寄生する・される、共生するなど、お互いに関わりをもって生きています。このように、多様な生きものが互いに関係しながら暮らしていることを「生物多様性」といいます。

私たち人間も暮らしのなかで、食料や水、安定した気候、心のやすらぎや豊かな景観など、生物多様性から多くの恵みを受けとっています。生物多様性は、地球上のあらゆる生命を支えている大切なものです。

第2章 世田谷の成り立ち、現状と課題

1. 成り立ち

江戸時代には野菜を供給する近郊農村として発展し、明治中頃までは水と緑豊かな農村地帯でした。

明治中頃以降から、鉄道の開通などにより、世田谷の人口は増えはじめ、大正12年には関東大震災がおり、世田谷への移転者が増え、住宅地が造られました。

2. 現状

人口は89万人を越え、一大消費地となっています。また区の南西部は、多摩川や国分寺崖線などまとまった緑が多く残り（みどりの連続性が高い地域）、中央部は住宅の中に社寺林や農地が点在し（住宅地の中に中・小規模緑地が点在する地域）、東部は都心に近く開発が進んでいる（市街化が進み比較のみどりが少ない地域）現状が見られます。

3. 課題

- ・草地や農地、樹林などの減少抑制と質の向上
- ・みどりの連続性の向上
- ・生物多様性に関わる主体の活動の継続
- ・生物多様性に関わる団体が持つ情報の効果的な活用
- ・生物多様性を理解するための、教育・学習機会の充実
- ・生物多様性に支えられた文化や歴史的景観の継承

第3章 基本事項

1. (仮称) 生きものつながる世田谷プランの役割

○本プランは、「生物多様性基本法」の第3条で示される基本原則に従い、同法第13条の「市町村の区域内における生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画（生物多様性地域戦略）」として策定するものです。

○本プランは、生物多様性国家戦略や東京都の「緑施策の新展開」を踏まえ、世田谷区基本構想・基本計画を上位計画とし、都市整備方針や環境基本計画に即しながら、生物多様性の視点を持ってより良い街づくりを戦略的に進めていくための計画です。

2. 対象区域

○世田谷全域

3. 対象期間

○策定から2032年（平成44年）まで

4. 理念

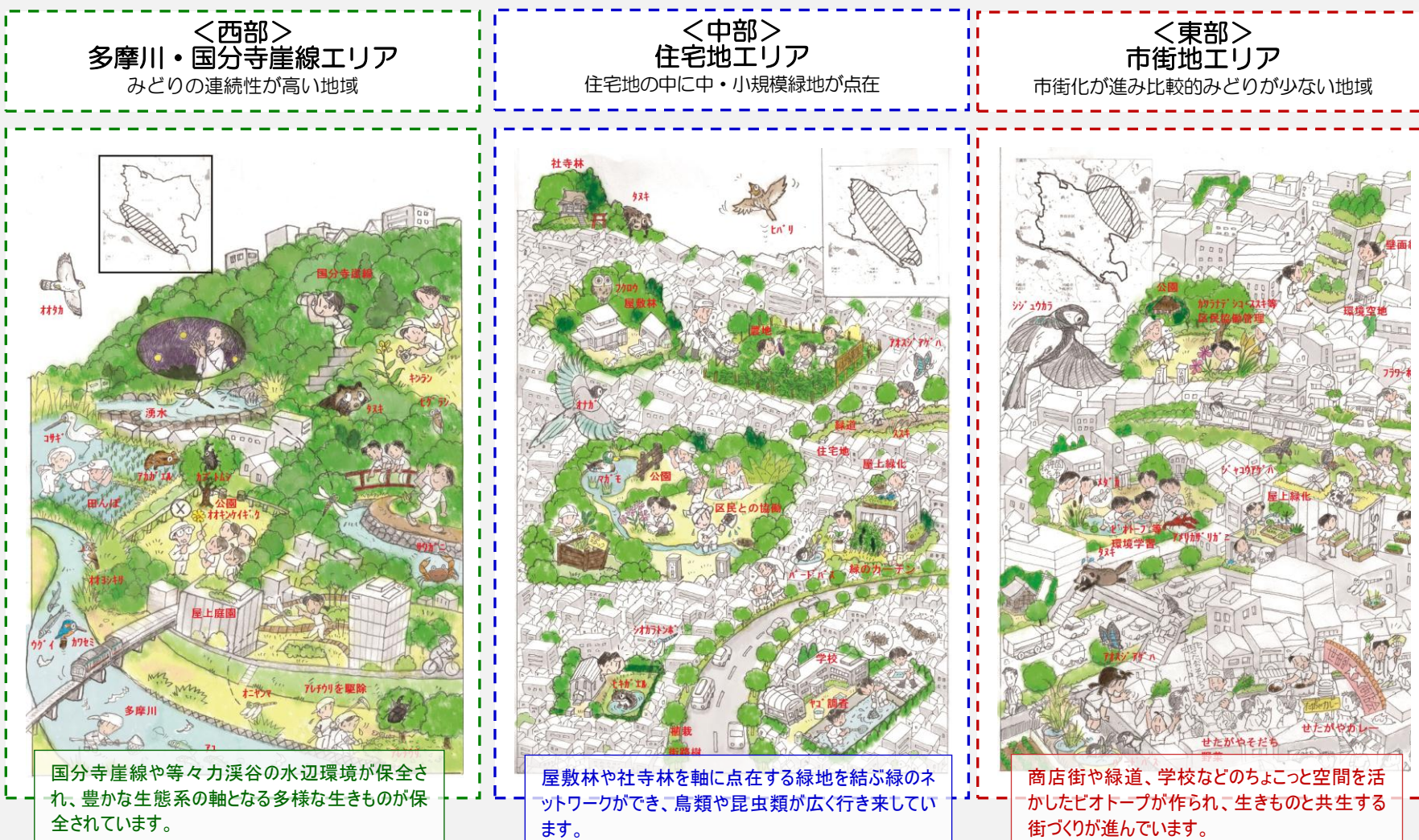
○環境共生をリードする住宅都市として、区民との協働によって生物多様性の保全と持続可能な利用を進め、豊かな地球環境の一部となる世田谷の地域環境を次代に伝えていきます。

5. 将来像

「みどり・いきもの・ひとがつながって、
生物多様性の恵みをみんなが実感し、大切にしている街・世田谷」

○このプランで示した取り組みを実施していくことで、世田谷内の生物多様性を向上させます。

○国や東京都、周辺の区や川崎市と連携して、周辺の豊かな自然環境と世田谷のみどりとみずをつなげます。



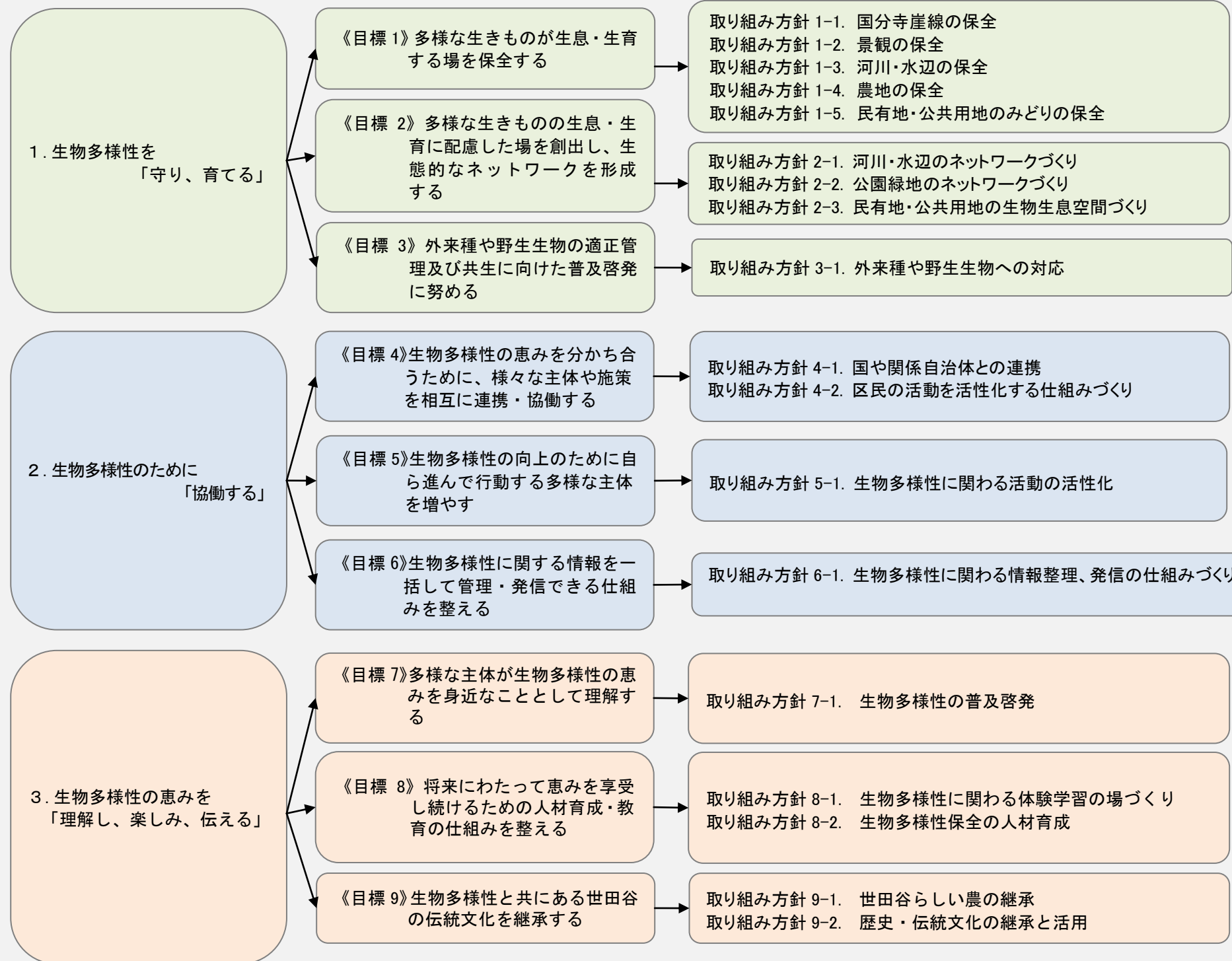
第4章 取り組み

1. 取り組み主体

生物多様性の恵みを受ける多様な主体が、それぞれの役割を認識し、連携・協働することによって実行力と継続性を持って取り組んでいきます。

- 世田谷区 ○(一財)世田谷トラストまちづくり ○区民 ○事業者 ○活動団体 ○教育・研究機関
- 関係自治体 ○国・東京都

2. 取り組みの体系：3つの柱、9つの目標、取り組み方針



第5章 取り組みの進め方

1. リーディングプロジェクト

- 「守り、育てる」、「協働する」、「理解し、楽しみ、伝える」の3つの柱ごとの取り組みを組み合わせたプロジェクトです。
- 自分事として主体的に参加し、全体として総合的・効果的に進められることが期待されるプロジェクトです。



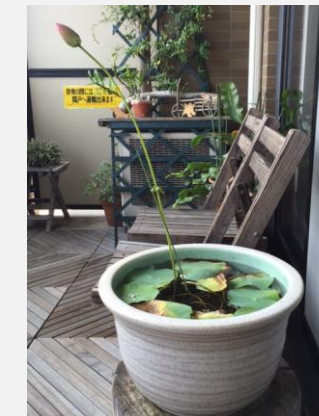
生きもの拠点づくり

生きものの住処空間を創出しネットワークを形成します。



せたがやカレー

“せたがやそだち”などの食材を使い、カレーづくりを行うことで、農業や生物多様性への関心を深めます。



ちよこっと空間づくり

生きものの生育・生息空間を増やします。

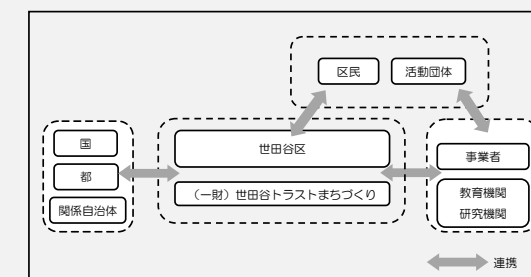


せたがや生きもの会議

様々な主体が連携して情報の共有や体験する場を増やします。

2. 推進体制

多様な主体の連携によって、生物多様性に関わる取り組みを推進していきます。



3. 進行管理

各取り組みは、生きものつながる世田谷プラン行動計画に定め、評価・見直し・検証をおこないながら進めていきます。

